

# コロー

## 光と追憶の変奏曲

# COROT

*Souvenirs et variations*

2008年9月13日(土)～12月7日(日)

神戸市立博物館

2008年6月14日(土)～8月31日(日)  
東京・国立西洋美術館

\*作家名の表記がない作品はすべてジャン＝バティスト・カミーユ・コローのものです。

No. 作家名(作品名)	制作年	所蔵先
<b>1章 初期の作品とイタリア</b>   <i>LES DÉBUTS ET L'ITALIE</i>		
1 《パレットを持つ自画像》	1840年頃	フィレンツェ、ウフィツィ美術館
2 ジャン＝ヴィクトール・ベルタン 《コルベイユ近郊、エソンスの眺め》	1800-1805年頃	パリ、ルーヴル美術館
3 《ルーアン近郊のボワ＝ギヨームの屋敷の門》	1822年	ヴェネツィア市立美術館 カ・ペーザロ近代国際ギャラリー
4 《パリ、サン＝ミッシェル古橋》	1823年	ボーヴェ、オワーズ県立美術館
5 《ヴィル＝ダヴレー、牛飼いのいる森の入口》	1825年頃	エディンバラ、 スコットランド・ナショナル・ギャラリー
6 ピエール＝アンリ・ド・ヴァランシエンス 《コロセウムの眺め》	1782-1784年頃	パリ、ルーヴル美術館
7 アシル＝エトナ・ミシャロン 《ローマのコロセウムの眺め》	1819年頃	パリ、ルーヴル美術館
8 《ローマのコロセウムの習作、 あるいはファルネーゼ庭園から見たコロセウム(昼)》	1826年	パリ、ルーヴル美術館
9 《ファルネーゼ庭園から見たフォロ・ロマーノ(夕べ)》	1826年	パリ、ルーヴル美術館
10 《ローマ郊外の水道橋》	1826-1828年頃	フィラデルフィア美術館
11 《ブッサンの散歩道(ローマの郊外)》	1826-1828年頃	パリ、ルーヴル美術館
12 《バビーニョの河岸》	1826年	ヴァランス美術考古博物館
13 《チヴィタ・カステラーナの岩々》	1826-1827年	カールスルーエ、州立美術館
14 アシル＝エトナ・ミシャロン 《ローマ近郊の農婦、あるいはナポリの農婦》	1820年	パリ、ルーヴル美術館
15 《ローマ、コローの長持に座る老人》	1826年1月	ボストン美術館
17 《オーベルラントのスイス女性》	1845-1850年頃	個人蔵
18 《ローマ、フランス・アカデミーの噴水盤(ヴィラ・メディチ)》	1845年以降	ランス美術館
19 モーリス・ドニ 《ヴィラ・メディチ、ローマ》	1921年	東京、国立西洋美術館
20 《トリニタ・デイ・モンティ教会、ヴィラ・メディチから見た眺め》	1833-1834年頃	パリ、ルーヴル美術館
21 《ヴェネツィア、広場》	1828年	ボストン美術館
22 《ヴェネツィア、広場と円柱》	1828年以降	パリ、ルーヴル美術館
23 《ティヴォリ、ヴィラ・デステ庭園》	1843年	パリ、ルーヴル美術館

## 2章 フランス各地の田園風景とアトリエでの制作

## CAMPAGNES DE FRANCE ET ATELIERS

24 《フォンテーヌブローの森の農婦》	1830-1832年頃	サンリス美術考古博物館
25 《フォンテーヌブローの風景》	1830-1835年	千葉県立美術館
26 《フォンテーヌブローの森のアブルモン峡谷》	1830-1835年	ポー美術館
27 《画家の姪、マリー・ルイズ・ロール・セヌゴン、 未来のフィリベール・ボード夫人の肖像》	1831年	パリ、ルーヴル美術館
28 《画家の友人のフェルディナン・オスモンと思われる肖像、 あるいは画家オーギュスト・フランクランの肖像》	1835年	パリ、ルーヴル美術館
29 《画家アドルフ・デプロシエールの子供の肖像》	1845年頃	パリ、ルーヴル美術館
30 《ヴィル＝ダヴレーのカバシュ邸》	1835-1840年	東京、村内美術館
33 《ヴィル＝ダヴレー —— 水門のそばの釣り人》	1852年	モントリオール美術館
34 《ヴィル＝ダヴレー、池の堰》	1830年頃	アラス美術館
35 《緑の岸辺で本を読む女》	1865-1870年頃	ランス美術館
37 《ヴィル＝ダヴレーの池》	1865-1870年	アジャン美術館 (オルセー美術館より寄託)
39 ポール・シニャック 《風景》	1886年頃	東京、イセ文化基金
40 《水汲み場のブルターニュの女たち》	1840-1844年頃	パリ、ルーヴル美術館
41 《マント近郊のロルボワーズの教会》	1855年頃	パリ、ルーヴル美術館
42 《ロニーのベリー公爵夫人の城》	1840年	パリ、ルーヴル美術館
43 《エトルタの風車》	1860年頃	パリ、ルーヴル美術館
44 《サン＝ロー付近の小さな農家》	1862-1866年頃	モントリオール美術館
45 《小さな谷》	1850年頃	パリ、ルーヴル美術館
46 《海辺の村、あるいは村の入口》	1850年頃、1870年に加筆	パリ、ルーヴル美術館
47 《ボーヴェ近くのヴォワザンリュウ付近の村の入口》	1850年頃	パリ、ルーヴル美術館
48 《風景、朝のボーヴェ近郊》	1860-1870年	ブローニュ＝シュル＝メール城美術館
49 《沼のほとりの柳》	1865年頃	パリ、ルーヴル美術館
50 《ホメロスと牧人たち》	1845年	サン＝ロー美術館
51 《少年と山羊》	1847年	東京、村内美術館

## 3章 フレーミングと空間、パノラマ風景と遠近法的風景

## CADRAGE ET ESPACE, VUES PANORAMIQUES ET PERSPECTIVES

52 プロスペール・マリラ 《ヴィルヌーヴ＝レ＝ザヴィニヨンの眺め、サン＝タンドレの要塞》	1836年	ランス美術館
53 《モルヴァンの風景、あるいは広い地平線の見える田園》	1850年頃	ストラスブール美術館
54 《ルーアン付近のセヌ川》	1835年頃	ロンドン、ナショナル・ギャラリー
55 《ピエルフロン城の眺め》	1834年頃	カンパール美術館
56 アンドレ・ドラン 《ウッソンのロワール河岸の風景》	1930年	トロワ近代美術館
58 《アラス近郊の道、あるいは藁ぶきの家々》	1853-1858年	アラス美術館 (ルーヴル美術館より寄託)
59 ポール・セザンヌ 《オヴェールの村の道、あるいはオヴェール＝シュル＝オワーズの古い道》	1872-1873年頃	パリ、オルセー美術館

No. 作家名《作品名》	制作年	所蔵先
60 《パリ近郊の農家の中庭、あるいはパリ近郊のパン屋の中庭》	1865-1870年頃	パリ、オルセー美術館
61 《ドゥエの鐘楼》	1871年	パリ、ルーヴル美術館
62 アルフレッド・シスレー 《アルジャントウイユの大通り》	1872年	ノリッジ城美術館
63 アンドレ・ドラ 《アミアン》	1947年	トロワ近代美術館

#### 4章 樹木のカーテン、舞台の幕 | RIDEAUX D'ARBRES, RIDEAUX DE SCÈNE

64 《葉むら越しに見たヴィル＝ダヴレーの池》	1871年	パリ、マルモッタン美術館
65 ピエール＝オーギュスト・ルノワール 《カーニュの松林》	1919年頃	ル・アーヴル、マルロー美術館
66 クロード・モネ 《木の間越しの春》	1878年	パリ、マルモッタン美術館
67 《ヴィル＝ダヴレーの思い出、森にて》	1872年	パリ、オルセー美術館
68 《傾いだ木》	1865年頃	ロンドン、ナショナル・ギャラリー
69 《ヴィル＝ダヴレー、傾いだ木のある池》	1865年頃	ランス美術館
70 アルフレッド・シスレー 《ヴヌー＝ナドンの岩の森》	1874年	パリ、ルーヴル美術館
71 ピーテル・コルネリス・モンドリアン（通称ピート・モンドリアン） 《農家の前の水辺の木々》	1905年頃	グラス美術館
72 《緑の岸辺》	1865年頃	ワシントンD.C.、ナショナル・ギャラリー
73 《マリセルの柳》	1857年	ボルティモア、ウォルターズ美術館
74 カミーユ・ピサロ 《夏の木かげの小道》	1877年	パリ、オルセー美術館
75 ピエール＝オーギュスト・ルノワール 《木かげ》	1880年頃	東京、国立西洋美術館
76 ポール・ゴーガン 《ノルマンディーの風景、沼の片すみ》	1885年	ミラノ、近代美術館

#### 5章 ミューズとニンフたち、そして音楽 | MUSES, NYMPHES ET MUSIQUE

77 《鎌を手にする収穫の女、あるいは鎌を持つ女》	1838年	ボストン美術館
78 《本を読む花冠の女、あるいはウェルギリウスのミューズ》	1845年	パリ、ルーヴル美術館
80 アンドレ・ロート 《正面／横顔の女の肖像》	1917年	パリ、ポンピドゥーセンター・国立近代美術館 (カンブレ美術館に寄託)
81 《本を読むシャルトル会修道士、 あるいは座って本を読む白い修道士》	1850-1860年頃	パリ、ルーヴル美術館
82 《ルイズ・オディアの肖像》	1852年	モンリオール美術館
83 アンドレ・ドラ 《イタリアの女》	1921年	倉敷、財団法人大原美術館
84 《ミューズ—歴史》	1868-1870年	ニューヨーク、メトロポリタン美術館
85 《バラ色のショールをはおる若い女》	1865-1870年頃	ボストン美術館
86 《バラ色のスカートの若い女、あるいは左肘をつく若い女》	1865年頃	パリ、ルーヴル美術館
87 《身づくろいをする若い娘》	1860-1865年	パリ、ルーヴル美術館

No. 作家名《作品名》	制作年	所蔵先
88 《もの思い》	1865-1870年頃	東京富士美術館
89 《コローのアトリエ、黒いビロードのドレスを着た若い女》	1870年	リヨン美術館
90 《真珠の女》	1858-1868年	パリ、ルーヴル美術館
91 《マンドリンを手に夢想する女》	1860-1865年	セントルイス美術館
92 《エデ》	1870-1871年	パリ、ルーヴル美術館
93 アンリ・マティス 《マンドリンを持つ女》	1921-1922年頃	パリ、オランジュリー美術館
94 ジョルジュ・ブラック 《マンドリンを持つ女、コローに基づく自由な習作》	1922-1923年	パリ、ポンピドゥーセンター・ 国立近代美術館
95 《水浴するディアナ》	1869-1870年頃	マドリッド、カルメン・ティッセン＝ボルネミッサ・ コレクション(ティッセン＝ボルネミッサ美術館に寄託)
96 《傷ついたエウリュディケ》	1868-1870年頃	ミネアポリス美術館
98 《甲冑の男、あるいは騎士》	1868年	パリ、ルーヴル美術館
99 《草地に横たわるアルジェリアの娘》	1871年、1873年に加筆	アムステルダム、ゴッホ美術館 (アムステルダム国立美術館から寄託)
101 《青い服の婦人》	1874年	パリ、ルーヴル美術館

## 6章「思い出(スヴニール)」と変奏 | SOUVENIRS ET VARIATIONS

102 《山羊飼いのいる風景》	1837年	パリ、ルーヴル美術館
103 《サン＝ル＝ノーブルの道》	1873年	パリ、ルーヴル美術館
104 《アルルーの風景、道沿いの小川》	1871-1874年	ロンドン、ナショナル・ギャラリー
105 《牧場の休息地》	1870-1875年頃	吉野石膏株式会社(山形美術館に寄託)
106 《モルトフォンテーヌの思い出》	1864年	パリ、ルーヴル美術館
107 《幸福の島》	1865-1869年頃	モンテリオール美術館
109 《ナボリの浜の思い出》	1870-1872年	東京、国立西洋美術館
110 《ビブリ》	1874-1875年頃	新潟県立近代美術館・万代島美術館

\* No. 16, 31, 32, 36, 38, 57, 79, 97, 100, 108、また10点のクリシェ＝ヴェールは所蔵先の都合により東京会場のみ出品。

\* No. 93 アンリ・マティス《マンドリンを持つ女》は神戸会場のみ出品。

・ 展示会場の温度、湿度、照明は、作品保護に関する国際基準と慣例、および所蔵美術館の貸出条件にしたがって厳密に管理されています。ご来館の方々にとって理想的と感じられない場合もあるかと存じますがご容赦願います。

・ 隣り合う作品の大きさや壁面とのバランスなど、展示の視覚的効果を考慮したためネームプレートと作品番号の展示の順番が異なる場合がございますのでご容赦願います。

## カラー展、東京会場と神戸会場との出品作品の違い

2008年6月14日～8月31日 国立西洋美術館(上野)

カラー84点 カラー以外の作品25点 計109点

★東京のみ、油彩画のカラー

No16 「上を向いて座るイタリア女性、マリア・ディ・ソラ」(ピカソ美術館)

No31 「ヴィル＝ダヴレー」(ブリヂストン美術館)

No32 「ヴィル＝ダヴレーのあずまや」(丸紅株式会社)

No36 「ヴィル＝ダヴレー、白樺のある池」(愛媛県美術館)

No38 「大農園」(山梨県立美術館)

No108 「ボロメ島の浴女たち」(ひろしま美術館)

国立西洋美術館が所蔵するカラーの版画作品10点を協賛展示。(C-1～10)

★東京のみ、油彩画のカラー以外の巨匠

No57 ドラン「南仏の風景」(オランジュリー美術館)

No79 ルノワール「手紙を持つ女」(オランジュリー美術館)

No97 ピカソ「小さな座る裸婦」(ピカソ美術館)

No100 マティス「赤いキュロットのオダリスク」(オランジュリー美術館)

2008年9月13日～12月7日 神戸市立博物館

カラー78点 カラー以外の作品22点 計100点

☆ 神戸のみ、油彩画のカラー以外の巨匠

No93 マティス「マンダリンを持つ女」(オランジュリー美術館)

★印の東京会場のみ作品は神戸には出品されません。